

シニア市場の多様性分析

— 未来展望と将来自己連続性の観点から —

高知大学 人文社会科学部 講師

磯田 友里子

株式会社ハルメクHD 生きかた上手研究所

工藤 玲

早稲田大学 商学学術院 教授

恩藏 直人

要約

シニア市場は同質な単一セグメントではなく多様な消費者の集まりであり、この多様性に応じたマーケティング戦略が必要であるという認識が広まりつつある。しかし、シニア市場内の多様性を捉える具体的な枠組みを提示する既存研究は少なく、消費者間の差異を捉えきれていない。そこで本研究では、シニア市場内の多様性を表す指標として未来展望 (FTP) と将来自己連続性 (FSC) を用い、2度の調査を行った。その結果、耐久財の購買検討段階では長期的な未来展望が購買意図に正の影響を与えるが、購買段階ではむしろ耐久財を含む非消耗品の購買活動を抑制してしまう要因となることが明らかになった。また、購買活動がもっとも活発なのは「将来の自分とのつながりは強いが、残された時間は長くないと感じているシニア女性」であり、「将来の自分とのつながりが強く、残された時間も長いと感じるシニア女性」は、金銭的支出を控える傾向が示された。

キーワード

FTP, FSC, シニア・マーケティング, 終活, 時間制約

I. 研究の背景と目的

高齢化に伴い、日本のシニア市場は年々拡大を続けている。シニア市場が注目を集め始めた当初は、これを単一の同質なセグメントとして捉える傾向が強かったが、近年ビジネスの現場ではその認識が変化しつつある。すなわち、シニア市場を一括りに捉えることは適切ではなく、個人の特性やライフスタイルに合わせたマーケティング戦略を策定する必要がある。しかし、シニア層内の異質性や多様性を分析するための視点や枠組みは依然として少ない (青木, 2015)。そこで本研究では、シニア市場内での多様な購買行動を捉える指標として、「主観的な人生の残り時間」を表す未来展望 (FTP) と「将来の自分との心理的つながり」を表す将来自己連続性 (FSC) を用いて、シニア女性の耐久財を含む非消耗品の購買行動分析を試みた。

II. 方法

I. 調査 I

株式会社ハルメクのモニターに登録している65歳以上の女性183名を対象にWeb質問紙調査を実施した。

FTPの測定には池内・長田 (2014) の日本語版FTP尺度に若干の語句の修正を加え使用し、FSCはユウラーサークルを用いて測定した。独立変数をFTPのうち機会焦点、FSC、および機会焦点とFSCの交互作用、従属変数を耐久財の購買意図とし、重回帰分析を実行した。

2. 調査 2

株式会社ハルメクの通販顧客のうち、過去に50万円以上の購買実績がある女性245名を対象にWeb調査を行い、独立変数となるFTPとFSCを測定した。次に、Web調査に回答した顧客の、3ヶ月分の耐久財を含む非消耗品の購買データを収集した。購買種類数、購買個数合計、購買金額合計、購買金額平均を顧客ごとに算出し、顧客IDによってWeb調査の結果と紐づけ、分析対象期間中に耐久財を含む非消耗品を1つ以上購入した65歳以上の女性108名のデータを対象に重回帰分析を行った。

III. 結果と考察

調査1では、「将来は可能性に満ちている」「人生はむしろこれからだ」といった長期的な未来展望を持つシニア女

性の方が、耐久財の購買意図が高い傾向が明らかになった。一方、調査2で購買データを分析したところ、長期的な未来展望を持つシニア女性ほど、実際の耐久財を含む非消耗品の購買活動はむしろ低調な傾向にあるという結果が得られた。また、耐久財を含む非消耗品の購買活動がもっとも活発なのは「将来の自分とのつながりは強いが、残された時間は長くないと感じているシニア女性」であり、他方、「将来の自分とのつながりが強く、残された時間も長いと感じるシニア女性」は金銭的支出を控える傾向にあった。さらに、シニア女性は「金銭的支出の増加」と「モノの増加」に対して、それぞれ異なる態度を保有している可能性が示された。

謝辞

本研究はJSPS 科研費 JP19K13836 の助成を受けたものです。

主要引用文献

- 青木幸弘 (2015). 「エイジングの諸相と高齢者市場—その構造変化と多様性の源泉を読み解く—」『マーケティングジャーナル』34(4), 40–68.
- Bartels, D. M., & Rips, L. J. (2010). Psychological connectedness and intertemporal choice. *Journal of Experimental Psychology: General*, 139(1), 49–69.
- Carstensen, L. L., Isaacowitz, D. M., & Charles, S. T. (1999). Taking time seriously: A theory of socioemotional selectivity. *American Psychologist*, 54(3), 165–181.
- 池内朋子・長田久雄 (2014). 「未来展望尺度の作成: Future Time Perspective Scale 日本語版」『老年学雑誌』(4), 1-9.